

# ~ウィーブ~ Weave

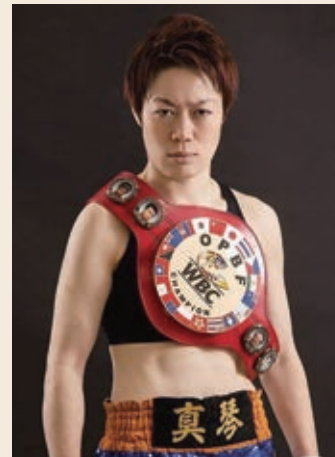
誰もが輝く社会を実現するために

問合せ 総務課総務係 ☎ 347

## ◆◆ 多様な性について考える ◆◆

性の多様性については、徐々に社会的な認識が進んでいるものの、差別や偏見によって当事者がさまざまな困難を抱える状況は少なくありません。羽村市在住のプロボクサー・菊池真琴さんも当事者の1人。2021年にLGBTQ+の当事者であることをカミングアウトしました。

今回は、1月14日に行った「女と男、ともに織りなすフォーラム in はむら」での講演をもとに、菊池さんのお話を紹介します。



菊池 真琴 (きくち まこと)  
(石川ボクシングジム立川所属)

大分県竹田市出身。第8代OPBF東洋太平洋女子バンタム級チャンピオン。羽村市在住。幼少期から剣道に打ち込み、29歳でボクシングに転向した。

### 【LGBTQ+ とは】

■性的指向=どのような人を好きになるのか

L	女性の同性愛者 (レズビアン)
G	男性の同性愛者 (ゲイ)
B	両性愛者 (バイセクシュアル)

■性自認=自分の性をどのように認識しているか

T	身体と心の性が違う (トランスジェンダー)
Q	心の性別、恋愛の方向性が定まっていなかったり、変化の途中など (クエスチョニング)

さらに+を表記することで、その他の可能性や「性のあり方はグラデーション」であることを表現します。

### 自分を封印した青春時代

私が「初恋」と自覚したのは小学校3年生の時。相手は2つ上の女子の先輩でした。しかし、母に打ち明けたら即座に「それを人に言ったらいかん」と叱られました。30年前の田舎町のこと、今なら母が私を守ろうとしてくれたと分かりますが、当時は「自分は異常な人間だから、人を好きになんてはいけません」とショックを受け、自分の感情を封印しました。

でも、その先輩に注目してほしい一心で「剣道で中学生日本一になる」と心に決め、目標に向けて突き進みました。進学した中学校では女子が剣道部に入れないと知り、校長や教育長に直談判に行きました。それでも入れず、次の手段として当時日本一の強豪校だった阿蘇中学校を訪問しましたが、レベルの差がありすぎると門前払い。その後、県内に阿蘇中学校に勝つた学校があると聞き、両親と訪問しました。今度は受け入れてもらえ、親元を離れて剣道に打ち込みました。日本一にはなれなかったけれど、阿蘇中学校と全国規模の大会で何度も対戦し、活躍したことを知った先輩が「頑張ったね」と手紙をくれました。見てくれたと、とても嬉しかったのを覚えています。

その後自分の気持ちは封印したまま、男性と付き合いをしたりして、異性愛者のふりをしながら生活していました。

18歳の時に初めて女性のパートナーができて、母に「恋人ができた」と報告しました。最初は渋っていた母も、そのうち私抜きでもパートナーに会うほど仲良くなりました。大好きな母に、私が自分らしく生きていく姿を見てもらえるのは嬉しいことでした。

### ボクシングとの出会い

29歳の時に親しかった後輩を亡くし、自分の生き方を見つめ直すきっかけになりました。大きな目標がない日々が物足りなかつた。そんな時オリンピックを見て、とても感動して「自分も出たい!」と思っ

てしまった(笑)。周囲は反対しましたが、当時のパートナーは理解してくれました。そこでまた猛進、29歳にしてボクシングを始めました。羽村市にある山木ジムで鍛えられ、日本代表になりました。ナショナルチームに入り練習に明け暮れる中で、自然な流れで自分がレズビアンであることを仲間に打ち明けました。仲間は柔軟に受け入れてくれ、私は自然体でいることができました。

ただでは生活できない。アルバイトなどをしなくてはなりません。自分を受け入れてくれたナショナルチームに恩返しをしたい。女子もプロボクサーとして生活できるようにしたい。そのために自分にできることはないか。そう考えていた時、「東京レインボープライド※」のイベントで「LGBTQ+の当事者であることを公表することで、ロールモデルが増え、同じような悩みを持つ人の助けになるかもしれない」「公表することで露出が増えれば、それを利用して女子プロボクシングのPRもできる」と助言され、勇気を出してカミングアウトしました。

### カミングアウト… 罪悪感からの開放

カミングアウトしたことで、身内の一部から「勝手な売名行為に家族を巻き込むな」などのバッシングがありました。非常に悲しいことですが、何を言っても受け入れてもらえないと思いつい「ごめんなさい」と言うしかありませんでした。

でも、異性愛者のふりをしたり、性的指向がバレないよう気を使ったり、自分に対しても世の中に対しても嘘をついていた罪悪感とストレスからは解放されました。当事者の方から「あなたのようの方が世の中を変えるきっかけになる」「勇気を使

もらえた」などの言葉をいただいたり、知人からカミングアウトしてもらえたりもしました。誰かの拠り所になれることが大変嬉しいことだと実感しました。ただ、公表が誰にとっても良いわけではありません。隠すことで家族や自分を守っている場合もある。他人が勝手に話してしまうことを「アウティング」というのですが、非常に無責任で危険な行為です。当事者が自殺に追い込まれた例もあります。面白半分には噂したりせず、当事者の選択を尊重してほしいです。

### 私は私。あなたはあなた。性のあり方は十人十色

私が望むのは、カミングアウトの必要さえない社会。「LGBTQ+」という言葉も必要なく、性のあり方で特別視されない世界です。より多くの方に、カミングアウトした人の話を聞いたりSNSをフォローしたりして、当事者はピエロでなく、身近にいる普通の人間であることを知ってほしいと感じています。

日本のLGBTQ+の当事者は960万人から1068万人、日本中の佐藤さん、鈴木さん、田中さん、高橋さんを合わせた数より多いそうです。東京都ではパートナーシップ宣誓制度を導入しましたが、制度の充実だけでなく、それによって認知度が向上し、一人ひとりの考え方が変わることを期待しています。

カミングアウトが自分にとって良いことだったかどうかは、まだ分かりません。でも、良かったと思える未来が来るよう信じて、この活動を続けていきたいと思っています。



▲(上)友人デザインの本人似顔絵Tシャツを着て笑顔を見せる菊池さん。(下)講演会の様子



▲羽村市公式動画チャンネルでも菊池さんを紹介しています

※東京レインボープライド…性的少数者が差別や偏見にさらされず、前向きに生活できる社会の実現を目指すイベント